



「何か #932」 72.7×72.7(cm) 陶粉、アクリルメディウム 2014年

## Yoon Heechang: Square

2 November- 1 December, 2024

GALLERY CAPTION



「Sand River Setouchi #1230」

41×41(cm) 瀬戸内で採集し焼成した砂、陶粉、アクリルメディウム 2017年

— 展覧会概要 —

- 展覧会名: 尹 熙倉「正方形の」 | Yoon Heechang “Square”
- 会期: 2024年11月2日(土) – 12月1日(日)
- 開廊時間: 12:00-18:00
- 休廊日: 月火曜日、および11月27日(水)休廊
- 会場: GALLERY CAPTION (ギャラリーキャプション)  
〒500-8813 岐阜市明德町10 杉山ビル1F tel 058-265-2336
- お問い合わせ: 担当/ 山口 (月火曜日、祝日をのぞく 12:00-18:00)  
tel 058-265-2336 fax 058-265-5715 [gallerycaption@gmail.com](mailto:gallerycaption@gmail.com)  
<https://www.gallerycaption.info/>

各位

謹啓 処暑の候 皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ギャラリーキャプションでは、11月2日より12月1日まで「尹熙倉展－正方形の」を開催いたします。尹熙倉(ユンヒチャン/1963年兵庫県生まれ)は1993年に岐阜市長良河畔の玉井町筋で行った、格子戸が残る民家の軒先に陶立体を設置したアートプロジェクト「呼吸する壁」展以来、ギャラリーキャプションと関わりの深い作家です。

日本で生まれ育った尹は、1988年に多摩美術大学大学院を修了した後、手びねりで四角く整えられた陶製のミニマルな立体を空間に配する「そこに在るもの」シリーズや、その立体を砕いて粉にした「陶粉」による静謐な絵画「何か」「Sand River」などを手掛けながら、国内外で活動を続けています。

尹の表現は、陶を素材として、場所や空間との関わりや、手で作ることへの意味づけ、ものを作ることの合理性と不合理といったテーマによって複層的に構成されていますが、作品の多くに、矩形がモチーフとして用いられています。それについて尹は、2010年に大英博物館(イギリス)などで行った、四角いモノの調査・研究を経て、人類が生きるためにものを作ろうとする、その営みの意力を、矩形に感じるようになったと語っています。

『四角い形は自然界には発生しにくい形で、四角い形をしたものがそこに在るということは、誰かが意思を持ってそれを作った(そこに置いた)ということになる。つまり人間の生きる意思を表す。さらに四角い形は人間が発見した合理性の象徴のように思える。人間はその合理性の恩恵を受けてここまで発展し続けてきたが、同時にそのことに疲れてもいる。もっともありふれた形である四角にはもっとも素朴なLove & hateが込められている。』(\*)

矩形の中でも、正方形や立方体は合理的な均衡を持った特別な存在であり、絵画においても正方形の画面は、描く側と見る側に特別な取り組みが求められると尹は捉えます。テレビや映画のスクリーンのように、左右に広がる人間の視界にあわせた長方形に対し、人の目の動きを制限するかのような正方形に、私たちは無意識のうちに窮屈な思いを強いられています。人間の観念が作り出した純粋なこのかたちを用いることは、ある意味、不自然な取り組みであると言えるのかもしれませんが、尹はそこに肯定的な意味を見出そうとしています。

「正方形の」と題した本展では、まさに正方形にテーマを絞り、初期から現在までに制作された陶粉画の中から正方形の画面に描かれたものと、新作の陶の立方体作品を並置することで、尹の活動を正方形から切り取り、眺めてみようとするものです。それは、正方形を介した、描く側と見る側の不自然な取り組みのなかに、ものを作ること、そして見ることへの人間の欲求を探る機会となることでしょう。

会期中には是非ご高覧賜り、また皆様にご紹介いただけましたら幸いです。  
お忙しいこととは存じますが、よろしく願い申し上げます。

敬具

(\*) 尹熙倉「Love & Hate at 大英博物館」(「視覚の現場 四季の結び 2010.5 vol.5」醍醐書房 2010年発行)より抜粋

・尹熙倉の「熙」は、正しくは「臣」「己」に烈火です。

press release: Yoon Heechang | Square



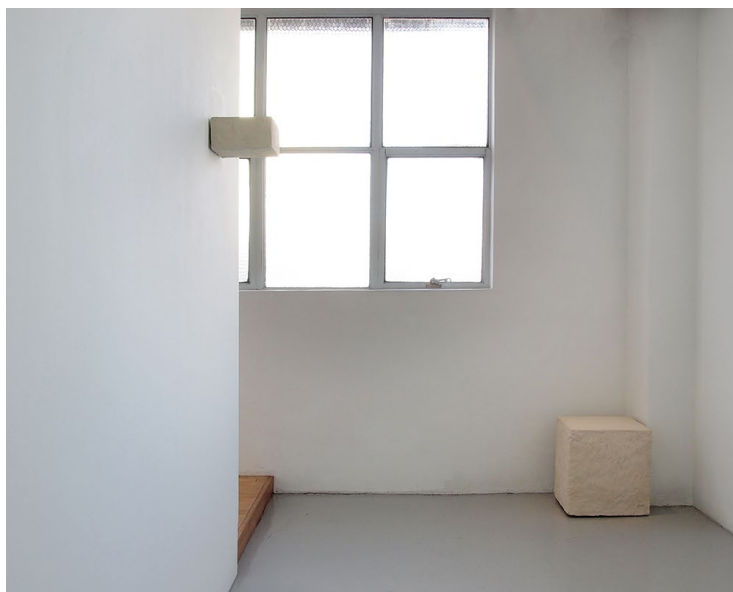
参考画像

展示風景-「尹熙倉 呼吸する壁」(岐阜市玉井町筋 / 1993年)



参考画像

手前-「そこに在るもの」 陶 21.0×19.0×9.5(cm) 2012年  
奥-「そこに在るもの」 陶 40.0×40.0×40.0(cm) 2012年



参考画像

「River Thames-15」

テムズ川で採集した砂、陶粉、アクリルメディウム、木パネル

116.0×116.0×4.0(cm) 2016年

尹 熙倉 (ゆん・ひちゃん)

- 1963 兵庫県に生まれる
- 1986 東京造形大学造形学部デザイン学科卒業
- 1988 多摩美術大学大学院美術研究科修了
- 1995 文化庁芸術家在外派遣研修でイギリスに1年間滞在
- 1997 イギリス レスタチャー ラフボロワ美術大学陶芸科及びレンガ工場で3ヶ月間滞在し制作
- 2010 文化庁新進芸術家海外派遣研修 特別研修(80日)イギリス大英博物館

現在 多摩美術大学工芸科教授

#### 【個展】

- 1987 松村画廊 (東京)
- 1988 かねこ・あーとG1 (東京)  
ギャルリ伝 (東京)
- 1990 小原流会館 (東京)  
なびす画廊 (東京)
- 1991 双ギャラリー (東京)  
ギャラリーなつか (東京)
- 1992 ギャラリーフロア-2 (東京)  
双ギャラリー (東京)  
「トポス・エトノス」(かわさきIBM市民文化ギャラリー／神奈川)  
ギャラリーNWハウス (東京)
- 1993 「呼吸する壁」(GALLERYCAPTION／岐阜)
- 1994 ヒノ・ギャラリー (東京)
- 1995 GALLERY CAPTION (岐阜)
- 1997 「そこにあるもの」静岡県立美術館  
裾野アートハウス (静岡)
- 2000 ギャラリー小柳 (東京)  
GALLERY CAPTION (岐阜)
- 2001 なるせ美術座 (東京)  
名古屋画廊 (名古屋)
- 2002 世界のタイル博物館 (愛知)  
「そこに在るもの」(ギャラリー小柳／東京)  
ナノ・リウム (山梨)
- 2004 GALLERY CAPTION (岐阜)
- 2005 ガレリア・アビターレ (東京)
- 2009 「はざかい」(GALLERY CAPTION／岐阜)
- 2010 「日月餅での展示」(日月餅新町店／大阪)
- 2011 「四角の話」(かみ添／京都)
- 2012 「『ある』の風景」(ギャラリー小柳／東京)
- 2013 「a touch of powder 一抔」(GALLERY CAPTION／岐阜)
- 2017 「尹熙倉の陶粉画」(多摩美術大学工芸棟ギャラリー／東京)
- 2018 「Sand River Work - 鴨川」(現代美術 艸居／京都)
- 2022 「蒼々茫茫」(ACG Villa KYOTO- ARTCOURT Gallery／京都)

#### 【グループ展】

- 1985 「2人展」(ギャラリー21／東京)
- 1986 「神奈川県美術展」(神奈川県立県民ホール・ギャラリー／横浜)  
「上野毛図鑑 '86-表現の現場より」(多摩美術大学上野毛校舎／東京)
- 1987 「セラミック・マーケット」(ギャラリーQ+1／東京)  
「表現の現場展 '87」(多摩美術大学上野毛校舎／東京)

- 1988 「神奈川県美術展」(神奈川県立県民ホール・ギャラリー／横浜)  
「セラミック・マーケット」(ギャラリーQ+1／東京)  
「ミームプール」(小原流会館／東京)  
「NAVIDADの夜に灯」(渋谷西武工芸画廊／東京)
- 1989 「第9回ハラアニュアル」(原美術館／東京)  
「彫刻家によるドローイング展」(石房有無／奈良)
- 1990 「現代彫刻の歩み8ー1970年代以降の表現ー物質と空間の変容」(神奈川県立県民ホール・ギャラリー／横浜)  
「クレイ・コネクション '90」(目黒区美術館区民ギャラリー／東京)  
「土の造形」(栃木県立美術館／宇都宮)  
「2人展(片山雅史と)」(細見画廊／東京)
- 1991 「セラミック・アネックス・シガラキ '91」(滋賀県立近代美術館、信楽伝統産業会館／滋賀)  
「土と砂のイリュージョン」(ギャラリーαM／東京)  
「2人展(西山真美と)」(なるせ村田画廊／東京)
- 1992 「2人展(金昌永と)」(ギャラリー小柳／東京)  
「空間と構想」(なるせ村田画廊／東京)
- 1993 「Mini Size Exhibition」(双ギャラリー／東京)  
「Art Today '93」(セゾン現代美術館(長野))  
「ヨコハマ現代美術展"THE WAVE"」(ポート・コミッションギャラリー／サンディエゴ、アメリカ)  
「環境彫刻 & ユーモアアート展」(ふなばし海浜公園／千葉)
- 1994 「21世紀・的・空間」セゾン美術館(東京)  
「素材の領分」(東京国立近代美術館工芸館)
- 1995 「やわらかく重く」(埼玉県立近代美術館)  
「還流」(愛知県美術館、名古屋市美術館)
- 2002 「光州ビエンナーレ・THERE: site of the Korean Diaspora」(光州、韓国)  
「エモーショナル・サイト」(佐賀町食糧ビル／東京)
- 2005 「アルス・ノーヴァー 現代美術と工芸のはざまに」(東京都現代美術館)  
「国際陶磁ビエンナーレ・Trans-Ceramic-Art」(世界陶芸センター／利川、韓国)
- 2006 「素景」(資生堂ギャラリー／東京)
- 2008 「魂の表面」(銀座松屋デザインギャラリー1953／東京)
- 2009 「余白の美」(静岡県立美術館)
- 2011 「新・陶・宣言」(豊田市美術館／愛知)  
「龍野アートプロジェクト2011ー一刻の記憶」(たつの市、兵庫)
- 2012 「ブラインド サイト」(MA2ギャラリー／東京)
- 2013 「龍野アートプロジェクト2013ー一刻の記憶」(たつの市、兵庫)
- 2013 「MOVING」(ニーム市美術館／フランス)  
「paintings」(ギャラリー小柳／東京)
- 2014 「growp show」ギャラリー小柳／東京
- 2016 「金田実生／尹熙倉」(GALLERY CAPTION／岐阜)  
「人が大地と出会うとき」(愛知県陶磁美術館)
- 2017 「単色のリズム 韓国の抽象」(東京オペラシティアートギャラリー)
- 2018 「しじまをみる」(MA2ギャラリー／東京)
- 2019 「ところざわ アートの潮流」(所沢市文化センター／埼玉)
- 2020 「白」(現代美術 舂居 アネックス／京都)

## 【パブリックコレクション】

東京オペラシティアートギャラリー 寺田コレクション  
兵庫大学4号館  
静岡県立ガンセンター  
茨城県陶芸美術館